令和５年３月 31 日制定
令和８年７月２日修正

新潟県立歴史博物館の運営方針
（令和５年度～令和９年度）

１　策定の趣旨

現在、当博物館は「新潟県立博物館の運営方針（平成 29 年度～令和３年度を新型コロナウイルス感染症拡大による館運営への影響を考慮して、１年延長し、令和４年度までの６年間に変更)」を定め、資料収集・保管、展示等の諸活動を行っているが、今後ともよりよい博物館づくりを目指すためには、博物館の諸活動の目的を明確化・共有化し、広く県民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていくことが引き続き必要である。

そのため、今後５年間（令和５年度～令和９年度）を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「運営方針」を定める。

なお、中間年となる令和７年度評価において、上位計画の変更等を踏まえ、本方針の一部を修正する。

２　当博物館活動の基盤

⑴ 博物館条例

当博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として平成 12 年８月に設置された。資料収集・保管、展示など様々な博物館活動を実施している。

⑵ 上位計画

新潟県総合計画（令和７年度～令和 14 年度）では、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を基本理念とし、「県民一人一人が学び、成長し、活躍できる新潟」を将来像に掲げ、「文化を通じた豊かな生活の実現」を目指している。

また、新潟県文化振興条例（令和６年４月施行）に基づき策定した新潟県文化振興基本計画（令和７年度～令和 14 年度）では、基本目標に「多様な文化と出会い、地域と人が輝く新潟」を掲げ、文化の振興等に関する施策を総合的かつ計画的に推進することとしている。また、県は、県民、市町村、文化団体等の様々な主体と相互に協力・連携しながら施策を推進する役割を担うものと位置付けられている。

⑶ 当博物館の運営体制

当館は、開館当初は県文化振興財団に管理運営委託された。平成 18 年度、指定管理者制度の導入に伴う管理運営形態の検討の結果、県の直営とするこ

ととされたが、同時に「指定管理者制度と同様の創意工夫」も求められている。

平成 20 年度には、それまでの諸計画を統合して「博物館運営方針」を定めた。平成24 年度からはこれを５か年の計画として整理した。

さらには、博物館が行う博物館の諸活動の検証・評価を行うため、平成 18 年度からは博物館評価委員会が設置されている。

３　当博物館を取り巻く情勢

当博物館を取り巻く情勢として、主に次のものが挙げられる。

(1) 全般的な社会情勢

・人口減少や経済活動の停滞による税収の減少や社会保障費の増加などで、国・地方の財政状況は厳しさを増している。

・訪日外国人増加や県外からの移住などの促進による交流人口の拡大への期待が広がってきている。

・人々の生活様式、経済活動などの広範な影響を及ぼす新たな感染症への対策と社会経済活動のバランスを図っていくことが課題となっている。

・本県では、全国より早いペースで少子高齢化の進展により、地域社会の維持の困難性が増すなど、県民生活への大きな影響が懸念されている。

(2) 博物館を取り巻く情勢

・新たな感染症拡大の影響により減少した入館者の回復が進まず、引き続き厳しい運営となっている。

・このような中、デジタル技術を活用した資料のアーカイブ化とインターネットを通じた鑑賞、教育活動に取り組むことが必要となってきている。

・博物館法の改正を踏まえ、地域の多様な主体との連携による文化観光の活動を図り、地域の活力向上に寄与することが求められている。

・持続可能な社会の実現（SDGs）を意識した館運営も必要となっている。

・本県においては、度重なる災害を経験するなかで、引き続き歴史資料を次世代へ引き継ぐ取組が求められている。

４　当博物館活動の現状

当館は、平成 12 年の開館以来、縄文を中心とした本県の歴史・民俗に関して、「収集・保管」、「展示」、「調査・研究」、「交流・普及」、「情報発信」の５つの機能を果たす活動を展開してきた。

具体的には、資料の収集・保存に努めるとともに、研究調査を館活動の根幹としつつ、常設展示や企画展（４回）を実施してきた。令和２年からは当館の収蔵品等を活用し、県内の歴史、民俗、出土品などに纏わる内容を紹介するテ

ーマ展示を実施、現在は企画展とテーマ展示をそれぞれ２回ずつ実施している。また、館内での講座・体験活動や館外活動、きめ細かな団体案内・展示解説等の充実を図り、学校教育・生涯教育の一翼を担う場としても活用されている。

情報発信では、報道掲載やホームページに加え、積極的にフェイスブックやＸ（旧ツイッター）などのSNSを活用し、当館の認知度向上に取り組んでいる。

これらの機能に加え、企画展及びテーマ展示における各種団体との共催や協力、地域史研究ネットワーク、博物館ボランティアの活発化をはじめ、様々な面で地域連携に取り組んでいる。さらには国の科学研究費等外部資金の獲得による研究等の一層の充実にも努めている。

利用者数については、これまで利用者総数（施設機能別（館内外）の利用者数合計）は年間 10 万人前後で推移し、また観覧者数（常設展・企画展の観覧券発行数）は近年やや漸減傾向にあり、年間５万人台から４万人台となっていた。しかしながら、令和２年度後半から新型コロナウイルス感染症の拡大による人々の行動制限や館活動の自粛の影響を受け、特に利用者総数では年間 10 万人前後から半分以下の４万人台まで落ち込み、いまだにその影響が継続しており回復していない状況にある。一方で来館者満足度は引き続き 90%以上を確保している。

５　博物館に対する評価

外部評価委員会による直近の評価※である令和６年度の館活動に対する評価報告書では、次のような評価を受けている。

（※中間年度にあたる令和７年度での直近評価）

歴史博物館評価委員会　令和６年度評価報告書の概要

・利用者総数・観覧者数が大幅に減少したことは、令和５年度の夏季企画展との比較や集計方法の変更に伴うものがあったことを考慮する必要もある。しかし、本館の基本理念にも掲げられている「新たな歴史像の県民との創造」の実現のために、引き続き県民一人ひとりが本県の歴史に触れあう機会の提供・推進に取り組むことが肝要である。

・ 上記とも関連して、学校教育関係の本館利用に際しては、学校単位で測るよりも児童・生徒単位に着目して測ることが、より本館の目的の評価に資するものと考える。

・ 施設・設備の老朽化への対応は、計画的な更新や補修を実施することはもとより、厳しい本県財政状況のもとでは、例えばクラウドファンディングの実施など新しい手法による対応も検討するべきと考える。

・人員・財源ともに厳しい状況のもとで新たな事業展開を図ろうとする場合、すべて従前と同じ行動を前提としていれば、困難である。社会経済

の変化にも対応しながら本県の価値を発信し続けるためには、引き続き館内外の関係者一人ひとりの自覚と思考が求められる。

６　博物館の基本理念

(1) 基本的な考え方

○　博物館の目的は「新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」ことにある。

この目的をよりよく達成するためには、これまで記載した現状・評価等を踏まえ、全職員が「博物館は利用者満足が起点」であることを常に意識し、博物館の基本的活動である資料収集・保存、展示、調査・研究等を着実に進める必要がある。そしてその成果を広く還元すべく、より多くの県民にご来館いただき、あるいは様々な博物館活動に触れていただくための創意工夫に努めることが不可欠である。

○　また、地域の関係機関から頼られる拠点施設としての活動を充実するとともに、地域文化を発信する観光拠点としても認知されることにより、多面的機能を有し、かつ、県内外及び国際的にも開かれた博物館としての地位を確立することが必要である。

○　これらの取組を着実に推進し、厳しい財政状況の中にあっても、県民から理解され支持される存在として発展していく必要がある。

(2) 当博物館の基本理念

これらの基本的な考え方に基づき、博物館の基本理念を次のとおりとする。

○　県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。

○　人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、〝にぎわいのある博物館〟』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

7　博物館活動の目標

この理念に基づいて活動を進めていくにあたっての成果指標として、博物館の利用者数、及び利用者の満足度を掲げる。

指 標

1 博物館利用者数　　2 博物館利用者の満足度

指　　標		現状値(令和４年度)	目　　標
1　利用者数	① 利用者総数	(単年度)　46,649 人	各指標を増加させる
		(前計画期間平均)　83,353 人	
	② 観覧者数	(単年度)　39,836 人	
		(前計画期間平均)　47,239 人	
2　満足度 (単年度)	① 来館者満足度	95%	各指標を維持・向上させる
	② 企画展	91%	
	③ 講座等	講座・講演会　96% 体験コーナー 100%	
	④ 来館者応対	100%	

〔各指標の数値について〕

1－① 利用者総数

博物館が行う以下の活動・機能ごとの利用者を加算した数値

（常設展＋企画展＋講演会・講座＋体験コーナー＋その他イベント等＋館外活動（出前講座・授業、移動・巡回展））

1－② 観覧者数

常設展及び企画展のチケット販売数＋無料観覧者・視察者

2－①～④ 満足度　利用者・参加者等のアンケート回答に基づく

8　博物館の活動方針

上の目標と併せて、博物館の使命達成と基本理念の実現に向けた活動を行っていくため、当博物館が有する機能や主な取組分野ごとに以下のとおり活動方針を定める。

(1) 収集・保管

・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めると共に、そのデータ化を推し進める。

・良好な資料保存環境を維持する。

(2) 展示

◇ 常設展示

・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。

・常設展示の十分な活用を推し進める。

◇ 企画展示

・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。

・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。

(3) 調査・研究

・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。

・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。

(4) 教育・普及

◇ 学校教育

・学校教育に一層活用される博物館を目指す。

・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。

・館内及び館外活動の充実を図る。

◇ 社会教育

・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。

・館内及び館外での活動の充実を図る。

(5) 連携

◇ 学術面の連携

・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。

・幅広い団体とのネットワークを強化する。

◇ 地域づくりに向けた連携

・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。

・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。

(6) 情報発信

・当館の活動について、県民認知度を高める。

・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。

(7) 管理運営

・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。

・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。

・来館者への安全・安心の提供に努めるとともに、来館者などの関心や目線に常に注意を向ける。

９　活動方針に基づいた取組の実施・進捗管理

上記の活動方針の達成を目指した博物館活動が確実に行われるよう、取組分野ごとの今後５年間の「主な実現方策」、及び５年後の到達目標となる「評価指標」を定める。〈別表〉

また、各年度の具体的な取組については、今後の社会情勢の推移、県民や利用者のニーズの変化、現実の館運営体制などに応じたものとする必要があるため、本計画の「活動方針」・「主な実現方策」のもと、各年度に検討する。

こうした博物館活動の取組について、毎年度、館内での自己評価を行うとともに、評価委員会からの評価を受ける。これらを通じてＰＤＣＡサイクルによるマネジメントに取り組む。

活動の評価には、博物館の使命達成の観点から多面的に分析を行う。

10　更なる充実に向けての課題

当博物館が更なる充実した活動を行っていくには、上に掲げた活動方針の達成に併せて、次に記載するような課題に取り組んでいく必要がある。これらの課題は、外部要因に大きく依存するものや、博物館単独では解決が困難なものもあるが、当館として可能な限りの進展を目指して取り組む。

- 博物館資料のデータベース化の推進
- 施設・設備の大規模改修等による展示環境・資料収蔵環境の改善
- 博物館の人事・組織体制の充実
- 外部団体や支援者との協働推進
- 来館者のサービス向上につながる取組の継続的な検討、実施
- ＳＤＧｓの理念や背景を理解し、関連性を意識した館運営

〈別表〉

新潟県立歴史博物館運営方針（令和5年度～令和9年度） 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標 項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	**令和7年度**	目標値（R9）
収集・保管	収集・保管	・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 ・良好な資料保存環境を維持する。	・資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 ・IPMによる環境管理を継続する。	収蔵資料目録の刊行準備	1目録	1目録	1目録	**1目録**	1目録
				収蔵資料破損(※)	**0件**	**0件**	**0件**	**0件**	**0件**
展示	常設展示	・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 ・常設展示の十分な活用を推し進める。	・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 ・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。	新規展示試行回数		1件	2件	**1件**	1件以上
				ワンポイント解説	676人	665人	805人	**963人**	500人
	企画展示	・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。	・年4回程度の企画展の実施を目標とする。 ・入場者の満足度を高める。	展示ジャンル数	3	3	3	**3**	3以上
				満足度	91%	93%	94%	**96%**	90%以上
調査・研究	調査・研究	・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。	・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 ・講座参加者の満足度を高める。	外部研究費取得件数（＊）	12件(6)	12件(7)	11件(6)	**7件(6)**	6件
				学会発表等件数	15回	16回	18回	**18回**	11回以上
				論文等執筆件数	39件	57件	64件	**72件**	55件以上
教育・普及	学校教育	・学校教育に一層活用される博物館を目指す。 ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 ・館内及び館外活動の充実を図る。	・教育機関への施設利用の周知。 ・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。	**県内小学校学習利用率(※)**	**10.9%**	**11.1%**	**10.8%**	**10.8%**	**10%**
				体験活動の新プログラム導入件数	2件	2件	3件	**4件**	1件以上
				体験コーナー参加者満足度	100%	100%	99%	**99%**	90%
	社会教育	・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 ・館内及び館外での活動の充実を図る。	・社会教育機関との連携に努める。 ・館内講座・出前講座を継続する。 ・ボランティアの受入の推進。	出前講座の参加者満足度	93%	97%	94%	**95%**	90%
				館員の講座・講演会の参加者満足度	96%	95%	97%	**99%**	90%
				ボランティアの活動延人数	258人	440人	463人	**460人**	300人
連携	学術面の連携	・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 ・幅広い団体とのネットワークを強化する。	・新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。	地域史研究ネットワーク事業数	2件	1件	4件	**4件**	2件以上
	地域づくりに向けた連携	・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。	・各種団体との事業共催等による連携を模索する。	地域団体の活動への参画件数	9件	10件	15件	**21件**	15件
情報発信	情報発信	・当館の活動について、県民認知度を高める。 ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。	・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ・ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 ・県外客誘致のための広報に努める。	**広報情報発信件数(※)**	1,592	1,597	1,507	**1,762**	**1,500件**
				館ホームページへのアクセス件数＋SNSフォロワー数(※)	135,576	128,569	102,254	**105,913**	**100,000件**
				館ホームページへのアクセス件数	118,205	110,625	83,595	**86,949**	
				SNSフォロワー数	17,371	17,944	18,659	**18,964**	
	管理運営	・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 ・来館者への安全・安心の提供に努める。	・自己評価・外部評価の実施。 ・評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。	全体収支比率	(3.5%)	(5.3%)	(3.9%)	**(3.0%)**	(5%)
				(評価指標の達成率)	(65%)	(85%)	(75%)	**(95%)**	(100%)

注1） 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース（予算・人員等）が、計画期間において維持されることを前提とする。

注2） 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

＊（ ）内は、研究分担者及び研究協力者数で内数。

※ 中間年となる令和7年度評価において指標を変更。